

社会福祉法人 佐啓会



佐 啓

社会福祉法人佐啓会 ふる里学会
〒290-02 市原市今富 1110-1
☎0436-36-7611
発行者 里 見 吉 英
編集者 三 股 金 利

巣立ち

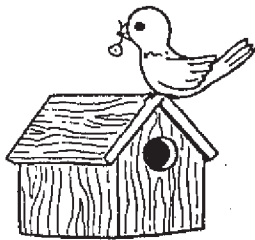
里見 吉英

「先生、タバコ吸っていい？」
「ああ、いいよ」
おもむろに胸のポケットからマイルドセブンとライターを取り出し、一本くわえシバー、フー。
近くに居た職員が、
「ああ、岡君。タバコなんか吸って通勤の先生に言ってるよ」
「言ってもいいよ。会社の人は吸ってもいいっていったもん」
つい先日まで寮生として学舎で生活していた岡君が遊びに来てのひとコマ。

生まれた時から施設暮らし、こういう人生もあるのかなと考えさせられてしまう様な弱冠十八才の青年。その彼が学舎での二年半の生活を終え、この八月から通勤寮へ入寮、近くのスーパーへ就職。働いて給料を貰うという社会人の一人として歩みだしました。今後どの様な人生を送るのか遠くから支援していきたいと思います。そしてもう一人。

「グループホーム姉ヶ崎」に入居しながら、高沢食堂で実習していた伊藤君が、十月より採用となり、グループホーム入居も正式決定。
その彼が、学舎の寮生と共に千葉県ゆああいピックソフトボール大会に一番ファーストで出場。二十五チーム中、見事三位に入賞。試合には同僚の人達も応援にかけつけ、もうすでに会社の一員、グループホームの一員となっているのを印象づけました。ひとまず安心。

彼等の生活の豊さとは何なのか



(施設長)

と、常に自問自答しながらのこの世界。彼等の生き生きとした自信にあふれた表情に接すると何となく我々まで豊かになった様な気にさせてくれます。
この様に学舎も三年目の半ばを過ぎ、新しい段階に入ってきた様です。
寮生については三年経過後の生活の展開をどうしていくのか、また地域に対しては厚生省へ申請していた地域療育拠点施設事業が十月一日付けで正式に認可になり、いよいよ本腰を入れて、在宅地域福祉に力を注ぐこととなりました。

遅まきながらも、知的障害者の世界も人権擁護・自己決定・財産管理等を含めた成年後見制度、高齢化問題等、種々な方向から、より具体的に検討されてきております。ふる里学舎も微力ながら研究を重ね、その一端を伝えればと、考えております。
皆様には今後の展開を温かく、そして嬉しい目で見守っていただけたら幸いです。
最後に彼等を温かく受け入れてくださった通勤寮の先生方、職場の皆様に感謝したいと思います。

新規事業の展開

飯田 俊男

在宅で暮らす知的に障害を持つ人が、その人なりのライフスタイルを歩むことができるよう国や各自治体では、様々な制度を実施しています。今回ふる里学舎が展開する「心身障害児(者)地域療育拠点施設事業」(通称コーディネーター事業)もその在宅支援事業のひとつとなります。
この事業は全国で五十六番目、千葉県では二番目に厚生省より認可されたものです。なんとなく難しい事業名ですが要約しますと、施設がそこに入所している方だけの関わりだけではなく、在宅で生活している方々の福祉の充実にも力を注ぎたいというものです。

具体的には、療育等に関する相談、各種福祉サービスの提供の援助、調整等がその業務内容となります。利用される側にとってはこれまででも困った時に、福祉事務所や民生委員・精神障害者相談員等に相談をされたことがあることと思いますが、その窓口が一つ増えたとお考え下さい。

今回前述したような事業を実施するにあたって、利用される側のメリットとしては次のようなことが考えられます。施設は年中無休ですので、休日や夜間においても柔軟な対応が図られる。本人のレジャーや保護者の研修会等の機会が得られる。定期的に制度等の情報が得られる。一時的な施設の利用が計画的にできること等があげられます。

すでにこの事業と関連する相談事業や短期入所事業・生活能力訓練事業は、開所当初から実施して

きました。しかし、これらは全て一過性のものになってしまい、我々としても一貫した援助ができればと思っておりました。利用する側も、その度に本人について、一から話をするのはなく本人をよく理解して、それなりの援助をスムーズにしてくれる機関を望んでいたことは、今までの関わりの中で十分感じることができました。
この事業により、在宅で生活する方々の諸問題がすぐに解決される訳ではありませんが、「ふる里学舎」という施設の機能を効果的に利用していただければと思います。
できることから一歩一歩皆さんと進んで行きたいと思えます。

(指導主任)

心身障害児(者)

療育拠点施設事業

・指定地域の在宅の方に登録していただきます。地域は市原市・袖ヶ浦市・木更津市・君津市・長生郡です。
・登録をされた方には、在宅支援の専門職「コーディネーター」が窓口となり具体的な援助の企画をいたします。
・登録は無料ですが、施設のサービスを受ける場合は国の基準により負担をしていただくこととなります。
・在宅で養護学校に通学している方や通所施設を利用されている方もこの事業の対象となります。

ふれあいホーム体験記

田島 逸子

「ふれあいホーム」を体験させていただき、本当にありがたうございました。「経験させていたただいて本当に良かった」というのが私の感想です。

本人が学校や家族と違う環境の中で、どのような反応を示すのか心配ではありましたが、思ったより馴染めたように思います。五日間だったのですが、本人は多分戸惑っているうちに母親が迎えに来た、というところだったのではないでしようか。先生がおっしゃって下さるよう忘れずまわらないうちに、またショートステイなどで、ぜひお世話になりたいと思っております。その時にはどうかよろしくお願いいたします。

子供のトレーニングも大切ですが、療育相談で的確なアドバイスを受けることができたのも、大きな収穫でした。無理に教えこもうとしてはいけないことや、学校で指摘された「わがまま」が問題なことがわかり、どれほどホッとしましたことか。大変勉強になりましたと同時に親を支援して下さる姿勢がとてもうれしく肩の荷が半分おりました。学舎内がとても清潔なこと、お食事がおいしかったことも母親としてとてもうれしく、安心しました。



魚のように海中を自由に泳ぎまわる。これは限られた人だけではなく多くの人に共通する夢だ。私もまたこの夢にとりつかれてきた一人である。つい最近まで忘れかけていた夢でもあったが、だが六ヶ月前、突然友人からスキューバーと一緒にやろうと誘われ、再びこの夢にとりつかれてしまった。ただ偶然としかはつきりと思いついてたが、友人の誘いにより、即座に雑誌を買って、スキューバーの店を訪れ、Cカードを取ることに決めた。(Cカードとはダイビングの講習を終えた人がもらえるダイバーの身分証明書の事)

週に二回、仕事が休まるから三時間程講習を受けるという日々が一月続いた。講習中もの凄く厄難におそれ、もう大変。受講しているのは私と友人の二人。それだけでも眠れない状態であるのに、さらにインストラクターと同じレベルというダブルパンチにみまわれ、ただでさえ細い目をしよぼしよぼさせながら睡眠と格闘している日々であった。この辛く思われた一ヶ月も無事に終了する事ができ、ブル実習も終え、いよいよ海洋実習である。

海洋実習の場所は、館山の西川名という所で、関東では多くの大物に会える場所として有名な。朝七時に家を出て、西川名に着いたのは九時過ぎであった。空は快晴、波は穏やか、絶好の初心者日和である。

器材を身に付けて、まずは浅瀬で二列になって潜ったが、感想を言うとしたら最悪である。私と友人は最後尾で前の人を必死になんて追いつけていたせいで、周りの景色など目に入っていなかった。それに、前にいた人が五十歳前後のおじさんで手と足をバタバタさせていた。砂が舞い上がって視界は一、二メートルしか狭さ

前号で厨房実習の感想を寄せていただきました伊藤智美さんが、7月よりグループホームに実習生として入居しました。(10月より正式入居し、たかざわ亭に勤務しております)

今号では、グループホームでの生活について感想を寄せていただきました。

7月から、たかざわ亭で働き始めました。初めにちらし弁当を作る手伝いをしました。

2階の食器は2階のケースに入れました。3階の食器をぜんぶかたづけたり、まわりの人たちといっしょにお弁当の盛りつけをしました。そのあとの洗い物はいそがしかったです。

ようちえんのお弁当箱やサンフーズの箱も洗いました。使った物をもとにかたづけました。

イベントホールの皿とかビール、ゆのみやグラスを洗いました。いそがしかったです。休憩時間のあとにまた洗いました。

夜は部屋にかえってきたらお風呂にはいって、それから自分たちで洗濯をしておしまりました。

つぎの日は5時におきて仕事に行きました。

つくらはないです。



魚になったボク



つたからである。陸の上でも視界が狭くなつてくると恐怖感に襲われるのに、初めて潜った海の中では十倍近く感じられる。初めて潜った海であった。すっかり意気消沈していた私であったが、午後からボートに乗り少し沖で潜ると透視度も非常に良く、手足をバタバタさせていたおじさんや一番前に行った為、一回目とは全然違う景色が広がって見えた。海底には大きな海藻がゆらゆらと揺れており、その隙間に珊瑚や二匹の岩穴を覗いている時、二、三匹はあろうかというサメらしき魚が三匹その穴にいた事であった。穴の中でたむろする姿は見ていて圧巻であった。後で聞いた話によると、その魚はドチザメという種類で、人間を襲ったりする事はなく体長も一、五メートル。水の中に見え、大きく見えたこと。

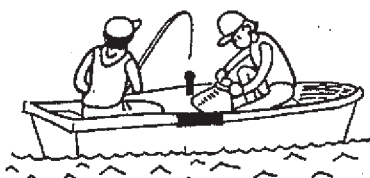
とにかく、水の中は陸とは全然違う世界が広がっており、静かでゆつたりとした気持ちで落ち着く感じがした。それに水中から揺れる水面越しに見える空がとても良く、今でも目をつぶるとあの何とも言えない景色が頭の中を鮮明によぎってくる。

今回は仕事を始めてからの私の生活について書かせて頂きました。スキューバーを始めた海、学舎の周りの緑の山々、そして不気味ささえ思えた海保公園までも今では生活の一つとして溶け込んでいくような感じがします。

これから多くの人達と出会い、色々な事に挑戦し、それぞれ違ったスパイスで刺激しながら頑張りたいと思います。

これからもよろしくお願ひします。

指導員 堀口 貴宏



週末のキッチン戦争

オープンして三年目を迎え、寮生も職員も学舎での生活にすっかり慣れ、落ち着いた毎日が過ぎるようになってきました。

毎日充実した生活を求め、いろいろな試行錯誤の中で、余暇指導のひとであるクラブも今年度は気分一新。スポーツ・政策・温泉・カラオケ・水泳・釣り・生け花・調理の七つのクラブが誕生しました。その他ボーリング・手芸等のクラブもありました。が、募ったところ誰ひとりとして希望者がなく消えてしまいました。

私が担当する調理クラブは、一時から四時半までの三時間半という短い時間内で、当然のことながら、作って、食べて、片付けて、までこなします。また、おやつの時間をはさんでいる為、ごく限られたメニューしか出来ず、主におやつ(お菓子)づくりを中心に行っています。調理室も近くの市の公民館の調理室が借りられ、その日

のおやつはいたたかないことにし、そのおやつに見合う食材をまわしていただくことになりました。今迄にサンドイッチ・ホットケーキ・お好み焼き・蒸しパン・フルーツゼリー・ポテトトースト・アイス・フルーツパンチを作りました。

自分たちの作ったおやつを食べる時の寮生の満足の顔、あつという間に食べ終わったり、充分味わうかのようににちびりちびり食べたりとそれそれに楽しんでいました。

これからの、さらに内容を充実させ、おいしいおやつを作り、寮生・職員共に楽しんでいけたらと思います。ちなみに今後、三月までの予定は、ピザ・パイ・ヤキソバ・デコレーションケーキ・チーズケーキ・シュークリームです。

出来るかなあ!

指導員 奥山 淑子

編集後記

先日、釣りクラブのメンバーと、交換研修でお見えになっていた、しもふさ学園の藤見先生と長浦港にハゼ釣りに出かけました。

当日は快晴、無風と絶好の釣り日和のためか、港は家族連れで大にぎわい。何とか釣り場を確保し釣りを始めましたが、不運なことに大きな船が着岸するのと同時にあえなく場所移動の準備。皆、残念そうに釣り竿を引き上げていたところ、なんと、釣りは初めてという藤見先生がハゼを釣り上げた瞬間の笑顔。

この笑みに刺激されたかメンバー五名は先輩の意地を見せようと、移動先の港に注ぎ込む河口では真剣な眼差しで竿先を見つめる。待てども待てどもあてはなし。隣のファミリーからは大きな歓声が聞こえてくるというのに、皆、諦めかけていたところ、やつと下くんの竿先が大きくしなる。(少し大げさか) やつと、ついにやつた。二十センチはあるうかというセイゴだ。結局三時間で釣果は二匹だけでしたが、楽しい休日をお過ごしことが出来ました。

海水が冷たくなつて来ると、今度はカレイです。大漁を夢見つつ、

佑啓第十四号をお届けいたします。